熊本県南阿蘇村の概要

南阿蘇村は九州の中央部、世界最大規模の阿蘇カルデラの南山麓に位置する風光明媚な人口10,000人の村。

阿蘇カルデラは九州の水瓶とも言われ、6つの1級河川の源流となっており、また本村には昭和・平成の名水百選に登録されている11カ所もの水源があるなど、「水の生まれる郷」をキャッチフレーズにＰＲしております。

村の主な産業は、農業と観光業。

特に村の重要な観光資源である草原や田園風景などの景観は、農業を営む中で守られてきました。

また、南阿蘇村を訪れる観光客は平成28年熊本地震で半数程度まで減少し、現在ようやく新阿蘇大橋をはじめとする交通アクセスが改善されたことを契機に、以前の賑わいを取り戻すように頑張っています。

■南阿蘇村の人口等

区　分	平成22年度	平成27年度	令和2年度
男	5,682人	5,569人	5,014人
女	6,193人	6,050人	5,311人
総　計	11,875人	11,619人	10,325人
世　帯　数	4,470世帯	4,744世帯	4,627世帯
転　入　者　数	483人	482人	398人
転　出　者　数	504人	479人	331人
出　生　者　数	79人	72人	58人
死　亡　者　数	161人	159人	147人
65歳以上人口	3,625人	4,127人	4,348人
高齢化率(%)	30.53%	35.52%	42.11%

■南阿蘇村産業別就業人口

区　分	平成22年度	平成27年度
1次産業	1,279人	1,232人
2次産業	951人	916人
3次産業	3,409人	3,244人
分類不能	47人	7人
総　計	5,686人	5,399人

※国勢調査より

■南阿蘇村経営耕地面積

区　分	平成22年度	平成27年度	令和2年度
田	136,947a	174,205a	160,372a
畑	29,756a	90,003a	46,588a
樹園地	2,247a	1,557a	1,124a
総　計	168,950a	265,765a	208,084a

※農林業センサスより(令和1年は概数値)

■南阿蘇村観光統計

区　分	平成26年	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年
宿　泊	489,400人	220,765人	260,022人	207,295人	199,655人
日　帰　り	5,992,935人	2,806,978人	3,427,706人	3,461,538人	3,244,273人
総入込客数	6,482,335人	3,027,743人	3,687,728人	3,668,833人	3,443,928人

南阿蘇村 ふるさと納税企業版のお問い合わせは

南阿蘇村役場 政策企画課

〒869-1404　熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽1705番地1

TEL 0967-67-2230　Fax 0967-67-2073

URL https://www.vill.minamiaso.lg.jp/

E-mail skikaku@vill.minamiaso.lg.jp

南阿蘇村
「企業版ふるさと納税」

内閣府
地方創生推進事務局

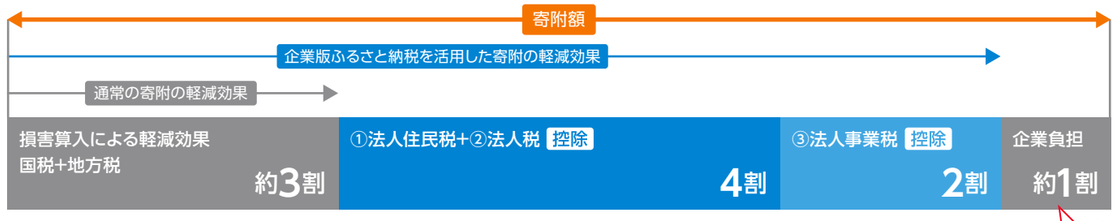
水の生まれる郷 南阿蘇村

熊本県 南阿蘇村 ふるさと納税企業版 ご支援企業様募集中！

制度の概要

企業版ふるさと納税は、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。

さらに、令和2年度より、地方創生の更なる充実・強化に向けて、地方への資金の流れを飛躍的に高める観点から、制度を大幅に見直しました。これにより、損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担が約1割まで圧縮されるなど、より使いやすい仕組みとなりました。



税目ごとの特例措置

- **①法人住民税**　寄附額の4割を税額控除（法人住民税法人税割額の20%が上限）
- **②法人税**　法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除。ただし、寄附額の1割を限度。（法人税額の5%が上限）
- **③法人事業税**　寄附額の2割を税額控除（法人事業税額の20%が上限）

企業の皆様からの寄附が、南阿蘇村の地域の未来に貢献する事業に使用されます。

南阿蘇村では企業版ふるさと納税を活用する事業プロジェクトを3つ用意しています。村民の声を元に、どれも地域のこれからをより活性化させるためのプロジェクトで、皆様のご支援でよりよい村へと発展していくことができます。
法人税の一部を「企業版ふるさと納税制度」で未来のための寄附へ活用してみませんか。

熊本の宝

阿蘇の景観と地下水を守る事業

本村は草原と田園風景が自慢の水の生まれる里です。

この景観と地下水は先人が1,000年以上農業を営むことで守られてきました。

※地下水を育むメカニズムは動画「阿蘇の地下水を未来へ」（右記QRコードより）をご覧ください。

農業の高齢化が進む中で景観を守り続けるためには、南阿蘇ファンの皆様に農産物を買い支えていただいたり、寄附などで応援していただくことが必要です。

南阿蘇村地下水保全基金を設置して

- 農業公社を設立して農地の集約と若手農業者の育成
- 冬季湛水による地下水涵養
- バーチャルフェンス等による省力的な放牧
- 冷涼な気候や堆肥を活かした有機農業
- 野焼きを実施している集落に支援金

などをすすめます。

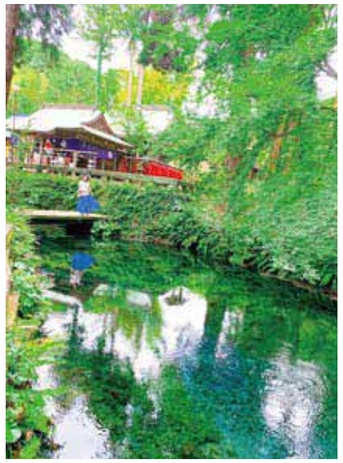
それによって

- 土地利用型農業で田園風景を、野焼きの継続で草原を維持
- 省力的放牧などで草原を守り、水田の冬季湛水を推進することで地下水を涵養
- 堆肥や緑肥を活用した有機農業で田畑に、野焼きの継続でCO_2固定

等の効果が期待できます。

地下水と景観を守る活動【HP】

阿蘇の地下水を未来へ【動画】



寄附で導入した農業機械等には寄附企業名を記載。
また村ホームページなどでも紹介させていただきます。

多くの企業の皆様のご支援をお待ちしております。

総事業費 150,000千円

計画期間 2021年9月～2025年3月

数値目標
- 新規就農者数 …… 10人/毎年
- 就農者による農地活用 …… 30ha/毎年
- 冬季湛水 …… 120ha

立野駅

立野駅周辺整備事業

水と風、人と情報のターミナルづくり

立野駅は、ＪＲ豊肥本線とここを起点とする南阿蘇鉄道が乗り入れる拠点の駅です。また、この駅を発着点として南阿蘇ゆるっとバスが運行し、駅北側には熊本市内と阿蘇を結ぶ、基幹交通網国道57号があるなど重要な交通ターミナルとしての役割があります。しかしながら、平成28年熊本地震の影響によりＪＲ豊肥本線（肥後大津～阿蘇駅間）は4年4ヵ月の運休、国道57号の一部が約5年間通行不能となり、さらに南阿蘇鉄道（立野～中松駅間）は令和5年の夏までの運休予定していることなども重なり、駅のある立野地区をはじめ周辺地区では大幅な人口減など大きな影響を受けています。

一方立野地区は、2つの川（黒川・白川）の合流点で、水の流れが風を呼び、気温・気圧の変化を肌で感じることができ、立野峡谷の切り立った地層・岩盤を目の当たりにして、阿蘇の大自然への入口を実感できます。

このような自然探索・阿蘇の総合交通としての特性を活かした「水と風、人の情報のターミナルづくり」を進めるべく、令和5年の南阿蘇鉄道全線運転再開に併せ、村の創造的復興を目指し立野駅周辺整備事業に取り組みます。

立野駅周辺整備事業

【整備内容】
- 交流施設（立野駅舎）の整備
- 駐車場の整備
- 駅前広場整備

総事業費 536,000千円

計画期間 2021年6月～2023年3月

数値目標 駅利用者数260,000人（R6）

私立学校

南阿蘇村の私立学校を支援する事業

本村には私立大学の農業実習フィールド、ICT専門学校（R4年4月開校予定）、通信制高校があります。

少子化のなか、それぞれに特色ある新しい取組みを進める予定であり、今後地域を担う人材の育成をおこないます。また人材を育成することで、新たな企業立地にも繋げ村の活性化を図ります。

そこで私立学校の新しい取組みに対して村の補助制度を創り、魅力ある学校づくり並びに未来を創る若者人材育成の支援をおこなっていきたいと考えております。

総事業費 50,000千円

計画期間 2021年9月～2026年3月

数値目標 新規就農者数・・・10人/年
企業立地による新規雇用数
・・・・・・・・・・・・・30人（R6）